（別紙様式４）

令和8年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専修学校 沖縄ペットワールド専門学校	平成16年3月22日	成底　敏	〒900-0034 沖縄県那覇市東町19-20 （電話）098-861-1586
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人KBC学園	平成6年3月14日	大城　圭永	〒900-0025 沖縄県那覇市壺川3-5-3 （電話）098-835-4240

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護・管理学科（3年制）（トータルペットケア専攻トレーニング）	平成27(2015)年度	－	平成30(2018)年度

学科の目的	動物業界に関わる職業人として、動物や自然に関する専門的な知識・技術・能力を身に付け、その知識に基づく実習・演習を通して実務に関する実践的な技術・技能を習得した人材を組織的に教育・育成することを目的とする。
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格　等）	取得可能な資格・検定 愛玩動物飼養管理士、JKCトリマー認定試験C級、ADICT

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		122 単位	48 単位	32 単位	42 単位	0 単位	0 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
180 人の内数	28 人	0 人	0 %	7 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	12	人
■就職希望者数（D）	11	人
■就職者数（E）	11	人
■地元就職者数（F）	10	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	91	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	92	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和8年 5 月 1 日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

ワンラブ、AHB、ペッツワン

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://kbcgroup.ac.jp/pet/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間
うち必修授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	122 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	11 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位
うち必修授業時数	11 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	11 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	3 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

①卒業生の主な就職先である動物病院・トリミングサロン・ドッグトレーナー・ネイチャー関連施設と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
②動物看護・管理学科における学修の中心となる動物の世話と管理、動物看護・手術実習、しつけトレーニング、グルーミング理論・実習、海洋実習、環境調査・実習等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の課程を明記

①学校の専門分野に関する業界動向、国および地域の産業振興の方向性、必要となる実務に関する知識・技術等から生じる専門学校の教育内容について意見交換等を行う事により、教育の質の向上をはかることを目的とする。
②教育課程編成委員会は、教育課程への意見を求める校長からの諮問に対し、教務責任者が委員長を務め、各学科責任者が参加することにより、企業等から提出された問題点の指摘や提言を次年度以降の教育課程（授業科目・授業方法・内容等）に反映させるべく討議を行う。
③校長は教育課程編成委員会設置規定に基づき、委員長からの意見（答申）を得て、次年度以降の教育課程の編成を行い、具体的な意見の反映の結果については、直近の委員会に報告する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
喜納　保	WOLVESHAND 沖縄事務局	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
翁長　朝	財団法人沖縄こどもの国　動物園課　課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	①
槇本　峰	ミライノ合同会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
周本　剛大	琉球動物医療センター　院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
大城　大樹	メイクマン浦添店　店長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
吉田　剛	沖縄ペットワールド専門学校　副校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
仲松　謙	沖縄ペットワールド専門学校　部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
儀間　秀人	沖縄ペットワールド専門学校　教務課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
山川　裕子	沖縄ペットワールド専門学校　教務主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
山城　正仁	沖縄ペットワールド専門学校　教務主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年間開催数：2回（毎年8月・12月）
（開催日時（実績））
第1回　令和7年8月19日　16：30～17：30
第2回　令和7年12月23日　15：00～16：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※動物看護・管理学科のカリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
委員会より、飼い主への対応力強化や販売促進強化の内容について提言を頂いたことから、下記について強化を図る。
・選択授業を通してコミュニケーション能力向上の強化
・イベント企画の授業を通してボランティア取り組み強化（自主性・積極性など）
・企業実習時の評価制度の取り組み強化

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①企業との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
②企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等に実務の視点から評価を仰ぐ。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
上記方針を実現するために、教育課程における科目について、動物業界について専門的知見を有する企業と連携し、実務に関する実践的な技術・知識を習得するための実習を行う。実際に企業にて業務の体験・実習を実施し、主に実践力（実務能力）を軸とした評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
企業実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	オム・ファム株式会社 株式会社AHB 有限会社ペットクラブオーシャン 有限会社OPF 総数20社
企業実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	オム・ファム株式会社 株式会社AHB 有限会社ペットクラブオーシャン 有限会社OPF 総数20社
企業実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	オム・ファム株式会社 株式会社AHB 有限会社ペットクラブオーシャン 有限会社OPF 総数20社
ドッグコミュニケーションⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ドッグインストラクターより、クリッカーなどトレーニング用品を活用したトレーニングプランを立てたトレーニング実習を習得する	犬道楽
ドッグコミュニケーションⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	クリッカートレーニングの復習や、試験対策等、必要項目の強化トレーニングを行う	犬道楽

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するため、関連する機関と連携して実務に関する知識、技術、技能の修得及び教員個々の教育活動上の役割を考慮し、指導スキルの向上を目的とした組織的かつ計画的な研修を行う。

①教育課程専門委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修
②教職員の能力向上および資質等の向上を図ることを目的とした研修等への派遣
③専門的かつ実践的な知識・技能・指導スキルを身につけるための研修等への派遣
④学校法人KBC学園教職員研修規定第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「D.I.N.G.O.オンラインカンファレンス」（連携企業等：D.I.N.G.O.）
期間：2025年5月　　対象：トータルペットケア専攻職員
内容：『D.I.N.G.O.オンラインカンファレンス2025～子供電話相談室のように～』
教育内容との関係性：コミュニケーションに必要な知識を深め、人と動物双方に心地よい関係性づくりに繋げる
企業等との連携内容：専門家からの最新情報・技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「Googleワークスペース研修」（連携企業等：株式会社STスマイル）
期間：2025年7月1日（月）～8月31日（日）　eラーニング　　対象：教務職員
内容：Googleワークスペースの機能（チャットやGoogleなど）やAIなどを学び、業務の中で活用することで、業務効率化、教務質向上を目的とする。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「D.I.N.G.O.オンラインカンファレンス」（連携企業等：D.I.N.G.O.）
期間：2026年5月31日　　対象：トータルペットケア専攻職員
内容：『D.I.N.G.O.オンラインカンファレンス2026～インストラクター資格取得への道～』
教育内容との関係性：コミュニケーションに必要な知識を深め、人と動物双方に心地よい関係性づくりに繋げる
企業等との連携内容：専門家からの最新情報・技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「教育DX、AI活用推進のための動画作成及びAL実践研修」（連携企業等：株式会社STスマイル）
期間：2026年8月20日（木）～21日（金）　　対象：教務職員
内容：全4単元（1.講義の動画化、2.小テストのAI生成、3.AL・PBL型授業設計、4.模擬授業実践と定着）を通じて「未経験でも明日から必ず実践できるアクティブラーニング（AL）を習得する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦略となる人財を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①教育理念・育成する人材像等は定められているか ②学生・保証人（保護者）に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか ⑤各学科の職業教育の特色は明確になっているか
（2）学校運営	①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議が定期的に開催されているか ⑦教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑧専攻分野に係る実務に関する研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて計画的に取組みが行われているか ⑨人事に関する制度を整備しているか ⑩給与に関する制度を整備しているか ⑪情報システム化等による業務の効率化が図られているか（情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか）
（3）教育活動	①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、教職員および学生等に周知しているか。 ②教育目標および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか ③教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルの設定や必要な学習時間が確保されているか ④講義および実習に関するシラバスは作成されているか ⑤シラバスあるいは講義要項（コマシラバス）などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか ⑥学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか（学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか） ⑦評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか ⑧カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか ⑨カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか ⑩キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑪関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか ⑫成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑬専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携した科目について、学生の学修成果の評価を行っているか ⑭資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
（4）学修成果・教育成果	①就職率の向上が図られているか（結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか） ②学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか ③学生の就職活動に関する記録がなされているか ④就職実績を公表しているか ⑤資格取得率の向上が図られているか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧資格・検定・コンペの結果（合格者数・合格率）を公表しているか

(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれは学生や保証人(保護者)に周知されているか) ②奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ③学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口の設置やカウンセラーを配置しているか ④学生の生活環境への支援は行われているか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか) ⑤保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか ⑥卒業生への就職支援体制を整備しているか

(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか) ②教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか ③施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか ④学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ⑤防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ⑥防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか ⑦定期的に防災訓練を実施しているか
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正且つ公正に行われているか(社会人、留学生等、多様な学生を受入れているか) ②入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、教職員および学生等に周知しているか ③学校説明会等による情報提供を行っているか(育成する人材像、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報など)
(8)教育の内部質保証システム	①ハラスメント等に関する規程を整備し適切に運用しているか ②学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ③個人情報保護規程が文書化されているか ④自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑤自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか ⑥学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか ⑦教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑧自己点検評価結果を公開しているか ⑨学校関係者評価結果を公表しているか
(9)財務	①年度予算・中期計画が策定されているか ②予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか ③財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①教育資源(教職員の出張講座等)や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

令和6年度実施の自己点検結果に基づく学校関係者評価より、学生支援、特に在学時の支援にて、担任以外に学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口整備について提言を受けた。今後は、メンタルヘルスについて相談できる窓口整備と県や市町村の心療医療期間のリストを提示するなど、学生支援の充実を図ることとする。学校関係者評価結果に基づく改善改革を今後も推進する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
喜納　保	WOLVESHAND 沖縄事務局	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等役員
翁長　朝	財団法人沖縄こどもの国　動物園課　課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	団体職員
槇本　峰	ミライノ合同会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等役員
周本　剛大	琉球動物医療センター　院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等役員
大城　大樹	メイクマン浦添店　店長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等役員
山城　徹美		令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　)　)

https://kbcgroup.ac.jp/pet/
公表時期:令和8年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資する事。その為に、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。

②又、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。

③情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①沿革　②学校の特色・教育理念　③校長挨拶　④所在地、連絡先
（2）各学科等の教育	①募集学科・定員　②入学方法　③カリキュラム　④目標とする資格・検定　⑤資格・検定実績　⑥就職状況
（3）教職員	①教職員紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	①就職サポート
（5）様々な教育活動・教育環境	①学校行事
（6）学生の生活支援	①各種サポート　②学生の声
（7）学生納付金・修学支援	①学生納付金　②学費免除制度、奨学金
（8）学校の財務	①収支計算書、貸借対照表、監査報告
（9）学校評価	①自己点検・評価　②学校関係者評価
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）　）

https://kbcgroup.ac.jp/pet/

公表時期：令和8年7月31日

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　トータルペットケア専攻（トレーニング））令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物の世話管理実習Ⅰ	動物飼育管理を通じ生体の特徴、衛生管理を学ぶ	1通	30	1			○	○		○		
○			グルーミング理論Ⅰ	犬種ごとのカット方法と犬種標準を学ぶ	1通	30	2	○			○		○		
○			グルーミング実習Ⅰ（A）	犬種ごとの扱いを学び、カット技術をマスターする	1通	120	4			○	○		○		
○			グルーミング実習Ⅰ（B）	犬種ごとの扱いを学び、カット技術をマスターする	1通	120	4			○	○		○		
○			グルーミング実習Ⅰ（C）	犬種ごとの扱いを学び、カット技術をマスターする	1通	30	1			○	○		○		
○			ドッグコミュニケーションⅠ	犬との関わり方や学習理論を学び、クリッカーを通じたトレーニング方法を習得する	1通	120	4			○	○		○		○
○			ドッグトレーニングⅠ	クリッカートレーニングの復習や、試験対策等、必要項目の強化トレーニングを行う	1通	30	1			○	○		○		
○			動物看護実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1後	30	1			○	○		○		
○			動物臨床検査学	検査の目的を解剖学的・生理学的知識とともに身につける	1後	15	1	○			○		○		
○			動物形態機能学	小動物の体の構造と機能を理解する。	1通	30	2	○			○		○		
○			動物衛生管理学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し社会一般への疾病予防を目的とする	1前	15	1	○			○		○		
○			動物臨床栄養学	犬猫に必要な栄養素・ライフステージ、ペットフードと療法食や給餌法を学ぶ	1後	15	1	○			○		○		
○			ペット概論	ペット飼養実態・ペット関連産業の概要・市場規模の知識を得て適正飼養を考える	1前	15	1	○			○		○		
○			愛玩動物総論	愛玩検定取得に向けての試験体対策	1通	45	3	○			○		○		
○			ビジネスマナーⅠ	社会人マナーやビジネス系検定取得を目指し実践的に学ぶ	1前	15	1	○			○		○		
○			志学Ⅰ	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1前	15	1	○			○		○		
○			ヒューマンスキル	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1前	15	1		○		○		○		
○			就職実務Ⅰ	基礎学の問題演習を通して、社会人として必要な知識を身に付ける	1後	30	2	○					○		
○			企業実習Ⅰ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	1後	30	1			○		○			○
○			特別授業Ⅰ(A)	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	60	4	○	○		○		○		
○			特別授業Ⅰ(B)	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	30	2	○	○		○		○		
○			動物の世話管理実習Ⅱ	動物飼育管理を通じ生体の特徴、衛生管理の学びを１年生へ指導する	2前	6	0			○	○		○		
○			ワーキングドッグ	社会におけるワーキングドッグの役割について理解を深める	2前	30	2	○			○		○		
○			エキゾチックアニマル	さまざまなエキゾチックアニマルの生態や使用方法について学ぶ	2後	30	2	○			○		○		
○			ショップ実習	企業での実習を通し、仕事の流れについて学ぶ	2後	60	2			○		○			○

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　トータルペットケア専攻（トレーニング））令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物の世話管理実習Ⅱ	動物飼育管理を通じ生体の特徴、衛生管理の学びを１年生へ指導する	2前	6	0			○	○		○		
○			ワーキングドッグ	社会におけるワーキングドッグの役割について理解を深める	2前	30	2	○			○		○		
○			エキゾチックアニマル	さまざまなエキゾチックアニマルの生態や使用方法について学ぶ	2後	30	2	○			○		○		
○			ショップ実習	企業での実習を通し、仕事の流れについて学ぶ	2後	60	2			○		○			○
○			イベント企画	動物に関わる様々なイベントを企画・運営し、地域貢献を目指す	2通	90	3			○	○		○		○
○			動物栄養学Ⅱ	疾患毎に制限すべき栄養素、多給すべき栄養素の判断について学び、食事管理をする	2通	30	2	○			○		○		
○			ドッグコミュニケーションⅡ	学習理論に基づき、効率的なトレーニング方法の設計、飼い主に対する的確なアドバイスを習得する	2通	120	4			○	○				○
○			ドッグトレーニングⅡ	クリッカートレーニングの復習や、試験対策等、必要項目の強化トレーニングを行う	2通	90	3			○	○		○		
○			動物看護実習Ⅱ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	2通	30	1			○	○		○		
○			動物臨床検査実習	検体検査・生体検査に関する意義・基本的手技を身に着ける	2通	30	1			○	○		○		
○			犬学	犬種ごとの特徴を学ぶ	2通	30	2	○			○			○	
○			パソコン実習	社会人として必要なビジネススキルに関わる基礎的な内容を理解し手技を取得する	2通	60	2			○	○			○	
○			販売士	販売士試験を通じて、接客や売り場づくり、魅力的な店舗運営に必要な知識・技術について学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
○			志学Ⅱ	社会の構造、企業の構造など、就職活動の具体的な進め方について学習	2通	15	1	○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	履歴書、面接、マナーについて学習する・基礎学力向上を目指し、筆記試験対策も行う	2通	60	4		○		○		○		
○			企業実習Ⅱ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	2通	30	1			○		○			○
○			特別授業Ⅱ(A)	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	60	4	○	○		○		○		
○			特別授業Ⅱ(B)	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	30	2	○	○		○		○		
○			アシスタント実習	トレーニングに関する知識・技術をアウトプットし、1年生のサポートを行う	3通	120	4			○	○				○
○			ドッグトレーニングⅢ	チームごとに目標を設定し、トレーニングの組み立て・目標達成を目指す	3通	90	3			○	○		○		
○			院内コミュニケーション	事前問診ができ、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する	3後	15	1	○			○		○		
○			販売士	販売士試験を通じて、接客や売り場づくり、魅力的な店舗運営に必要な知識・技術について学ぶ	3通	60	4	○			○			○	
○			基礎学力	文章読解力、基礎的な計算能力、時事問題などの理解を深める	3通	30	2	○			○		○		
○			猫学	猫について知識を深め、猫種ごとの特徴を学ぶ	3通	30	2	○			○		○		
○			AIメディア制作演習	生成AIの基本的な仕組みを学び、それを活用した制作物を生み出す技術を習得する	3通	60	4		○		○		○		
○			卒業研究(A)	専門分野について研究を行い、まとめた資料を作成する	3前	45	3		○		○		○		
○			卒業研究(B)	専門分野について研究を行い、成果についてまとめ発表を行う	3後	30	2		○		○		○		
○			動物園・水族館学	動物園、水族館の役割、輸送、展示、エンリッチメントについて学ぶ	3前	15	1	○			○		○		
○			爬虫類学	爬虫類の生態管理方法、病気の対策、飼育管理方法について学ぶ	3後	20	1	○			○		○		

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　トータルペットケア専攻（トレーニング））令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	サービス検定3級取得に向けた演習やショップでの接客応対を学び実践演習を行う	3前	30	2	○			○			○	
○			英会話	ペットショップやトリミングサロンでの英会話を学ぶ	3後	15	1	○			○			○	
○			繁殖学	主に犬の繁殖生理を理解し性周期・疾病予防について理解する	3通	30	2	○			○			○	
○			動物の病気	動物の主な疾患について知識を深め、適切な体調管理について学ぶ	3前	15	1	○			○		○		
○			外科学実習	手術準備や手術中・術後管理、麻酔準備や記録、救急救命などの知識と実践力を習得する	3前	15	1	○			○		○		
○			就職実務Ⅲ	履歴書、面接、マナーについて学習する・基礎学力向上を目指し、筆記試験対策も行う	3通	60	4	○			○				
○			企業実習Ⅲ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	3前	30	1			○		○			○
○			特別授業Ⅲ（A）	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	3通	60	4	○	○		○	○	○		
○			特別授業Ⅲ（B）	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	3通	30	2	○	○		○	○	○		
合計				63科目											122単位

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①31単位に当該専攻の修業年限に相当する年数を乗じて得た単位数 ②年間授業時間数の90%以上 ③成績評価すべてＣ評価以上 ④授業料等が全て納入されている事	１学年の学期区分	2期
履修方法： ①評価試験 原則として科目毎に前期・後期終了時に評価試験結果とする。 ②出席状況 ③その他 授業態度・確認テスト・課題提出・検定試験などによって実施 ※原則として絶対評価	１学期の授業期間	26週